

# 会員のページ

## ★作ってみよう！「海藻ラミネート」みなとみらい版

本誌前号に掲載の「養殖研究所・海藻押し葉ラミネート作りコーナー」を参考に、2005年11月、豊かな海づくり・横浜大会の際、水の使用不可の会場にて「水産総合研究センター本部みなとみらい版」を工夫しました。

事前に、1) 海底写真を背景として印刷したA4サイズの台紙をつくり、2) 長さ5cm程の海藻・海草の押し葉を収集し、3) 研究標本の魚、ウニ、貝類等のカラー写真や市販CGイラスト類を用いて様々な縮尺で多種の紙片切り抜きを作りました。当日には、1) 参加者に書き込み等も加えたりして自由に作品を作っただき、2) ポラロイドカメラで作者の顔写真を撮影し、3) 顔写真を作品の中に入れてラミネートして完成させ、4) 当ブース来訪の「自分で作った記念品」として持ち帰っていただきました。事前準備の一環では、当日の要員が相互に試作品づくりの補助を務めて、来客対応を習熟しました。来訪者にはとても喜んでいただけました。なお、当日までに、ガーゼまたはキッチンタオル等を用いて軽い重りで乾燥させるなど工夫して海藻押し葉を準備し、多数の魚介類の紙片切り抜きも作りためていた水産総合研究センターの皆様のご協力に感謝いたします。

(小田憲太朗・寺脇利信)

来客対応の習熟時の試作品の例  
(2006年中央水研横須賀庁舎用の研修の際のもの)



## ★水族館でオオバロニアが大増殖！

藻類学会員の荻野洗太郎さんが館長を務める「いおワールドかごしま水族館（鹿児島市）」では、数年前からアマモ場水槽内でオオバロニアを培養・増殖させています。オオバロニアは熱帯亜熱帯域のサンゴ礁リーフ内の岩上で見られますが、「アマモ場とオオバロニア」の組み合わせはなかなか想像できないかもしれません。県外からも問い合わせがあるということで、学会員の皆さんにご紹介します。

鹿児島市内には、オオバロニアがアマモ場内で生育する場所が実在します。職員（現：非常勤）の大森純子さん（藻類学会員）が現地から採取し、採取場所を考慮してアマモ場水槽に入れて培養したところ、どんどん増殖して写真のようになりました。館内の環境教育施設「アクアラボ」でも解説用に展示し、不動胞子の成熟誘導を実演しています。

直径5cm程度の個体もあり、天然でもなかなか見られない大きさです。海底はアマモとヤマトウミヒルモで覆われており、転がるように生育しています。ヤマトウミヒルモの密度も天然で見られないほど高く、培養技術の高さをうかがい知ることができます。

(寺田竜太)



アマモ場の海底を漂うように生育するオオバロニア



ヤマトウミヒルモの密度にも驚かされる



来訪者への説明用シート（A3版のラミネート）

